

アトピー性皮膚炎について

かゆみのある湿疹が慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。乳児期から認めることも多いです。

乳児期の湿疹の程度が強く、離乳食を始めることが心配な保護者もたくさんいらっしゃいます。現在、乳児期の湿疹と他のアレルギー疾患（食物アレルギーなど）との関連が深いこともわかってきています。ですので、湿疹の治療を一緒にしながら、安全に離乳食開始できるようお話をさせていただきます。

また、赤ちゃんだけではなく、湿疹でお困りのお子さんがおられましたら、一度ご相談にいらしてください。

- (1) 診断 ; 環境整備（おうちのダニ、カビ、ペットなどの対策）、スキンケア指導をしながら経過をみさせていただき、赤ちゃんの場合は乳児期に認める他の湿疹と鑑別していきます。
- (2) 検査 ; 必要であれば血液検査など行います。
- (3) 治療 ; 洗う、保湿するといったケアを重視しつつ、必要であれば症状の強さに応じた**ステロイド剤**※（抗炎症剤）を使用するようお話しします。
アトピー性皮膚炎は、短期間で治ることはありませんが、スキンケア（塗り薬の治療も含めて）を適切に行うことで、症状をコントロールして、湿疹などの症状が出ない状態にすることはできます。

スキンケア教室について . . . 当院では定期的に乳幼児や妊婦さんを対象にスキンケア教室を開催しています

※ ステロイド外用薬について

「ステロイドは副作用が怖いので塗りたいありません」「私（保護者）もアトピーでステロイドを使用してきましたが、結局中止できずに苦労しました。子どもには使いたくないです。」という保護者の方も、よくいらっしゃいます。

しかし、炎症を抑えるためにステロイド外用薬は非常に効果的で、炎症の強さに応じたステロイドを使用すれば、とてもお肌はきれいになります。ここで大切なのは減量方法です。肌の炎症がまだおさまっていない状況で急に中止すれば、リバウンドし、皮膚炎はひどくなります。適切な量を、適切な塗り方、適切な期間使用し、肌の様子を確認しながらゆっくり減量します。また減量後に週数回だけステロイド外用薬を使用する「プロアクティブ療法」を実践することで、ステロイド外用薬の総使用量を減らしつつ、良い肌の状態を維持することができます。